

採算性の確保に関すること

ICT化における高コストの事例として、JISA(一般社団法人情報サービス産業協会)提言書「クラウド時代の医療連携ネットワーク」には以下のような記述があります。

医療のIT化が全国的に普及、進展しない要因の一つとして、IT化コストの問題が指摘される。「先進的情報技術活用型医療機関等ネットワーク化推進事業事後評価報告書(経済産業省)」では、医療IT化を進める上での阻害要因としては「費用の高さ(76.0%)」が最も高くなっているが、各医療機関向けの個別カスタマイズや、複数の業者が構築したシステム間での情報連携などを実現する場合に、特にその構築コストは高まる。

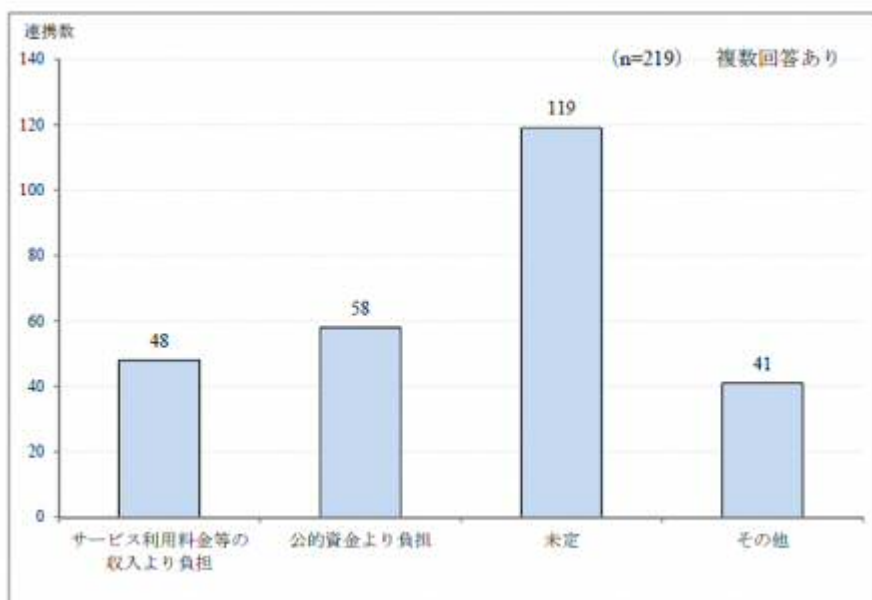
「JISA 提言書 クラウド時代の医療連携ネットワーク」より引用

一般に、ICTシステムでは、運用に要する経費(運用コスト)は構築に要する経費(初期構築費)と正相関するため、連携ネットワークの構築に要するコストにより運用保守費用も定まることとなります。そのため、将来の運用コストも事前に想定しながら初期構築費を決定することが重要です。

また、システムはハードウェアもソフトウェアも含めて数年間に1度(平均して5年程度)、更改することが通常です。連携ネットワークを長期的に利用する場合、こうした更改に必要なコストにどのように対応するか、事前に想定しておくことも重要です。

日医総研の作成したレポート「ICTを利用した全国地域医療連携の概況(2016年度版)」によると、システム更改時の費用が未定という回答の地域が全体の半数以上を占めていますが、この更改時の費用を確保できなければ、システムとして継続することは困難になります。

図 2.13-3 将来システム更改時の費用負担(予定含む)



日医総研ワーキングペーパー「ICTを利用した全国地域医療連携の概況(2016年度版)」より引用